

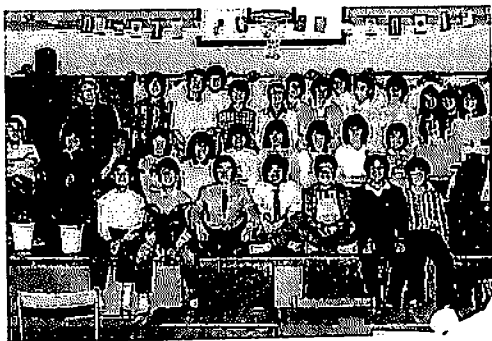
メモリアル ノート



同窓会の歩み

【これまでの経緯】

今回、現在の役員が同窓会の活動を再会するにあたって、今までの経緯をいろいろな方にうかがいましたが、資料も殆どなく、それぞれの記憶も少しずつずれていたりしますので、正確な所は解らないというのが正直な所です。活動が盛んな時と停滞している時が繰り返されるようですが、現在役員の中で共通に理解しているのは、おおよそ次のようです。



昭和25年5月に3期4期の方が中心となって、同窓会が発足し、規約が作成されました(18条)。10期前後の方が卒業した頃には、活動は停滞していたようです。資料として、昭和47年6月の役員と幹事の名簿(17期の会長を始めとして、13期～25期まで55名)と25条からなる会則があります。その数年前あたりより、5月に新しい卒業生を中心にした総会を開いて、会費を使い切るという形。会長も、若い代の方が次年へ次年へと申し送っていく形が、長く続いたようです。総会の内容は、若い人を中心に抽選会やゲーム、有志のバンド演奏などを取り入れて、楽しく1日を過ごすといったものだったようです。また、卒業式当日に一番新しい期の幹事が、卒業式のあと学校に残って名簿を作成して帰る、という活動をしていたようで、この名簿が今回の名簿作成にあたって大いに役立ちました。そして、37期の会長を中心に、ボーリング大会をして総会に代えた活動を最後に、停滞していましたが、平成7年4月現役員が集まり、会則の整理(20条)から、再び活動をスタートしました。



より正確な経緯につきましては、会員の皆様の中に会長を経験された方、理事幹事として活躍された方がたくさんいらっしゃると思いますし、他にもよくご存じの方がたくさんいらっしゃると思います。今後の活動の1つとして、同窓会の歴史をまとめることも考えておりますので、ご存じの方は、ぜひご連絡いただければと思います。

また今回整理された名簿ですが、不明となっている方の消息がおわかりになりましたら、ご連絡戴きたいことと、住所が変わられた場合にも、ぜひご連絡いただきますようお願い致します。

同窓会の歩み

【理事 幹事会】

現在43期以降は、理事は男女各1人、幹事は各クラス男女各1人ずつという形で整いつつあります。42期以前については、これからという所です。

【名簿作りにあたって】

今のところ同窓会の活動は、50周年に向けての名簿作りが中心です。

平成7年 4/23, 5/23, 6/4, 7/16, 12/11

平成8年 2/22, 3/18, 4/15, 6/23, 7/14

の日曜日の午後1時～3時までの作業日と、数回の学校側との打ち合わせや、編集会議を経て今にいたっています。

作業日には若い期の幹事（46期47期48期49期）が中心になって本当によく活躍してくれました。期毎に整理されている名簿をいただいたり、学校に保管されていた名簿を発見したり、卒業アルバムの住所録をコピーしたりした、元になる名簿を原稿用紙にひたすら書き写すという単純作業でしたが、おしゃべりをしたり、おかしを食べながら、手をよく動かしてくれました。そのうちに宿題にして家へ持ち帰ってくれる人もあらわれる程、熱心に取り組んだおかげで、かなり効率良く進みました。



【今後について】

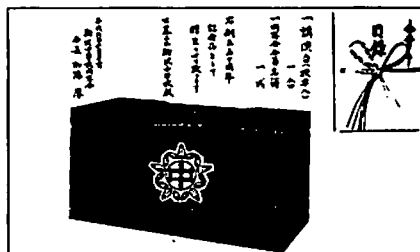
今後の活動については、総会の開催、名簿（旧職員を含む）の管理と充実、同窓会の歴史の把握、理事幹事の充実、新しい幹事へのアプローチ、などがあります。

名簿の管理充実につきましては、住所を変更なさった方、不明になっている方の消息がわかった方は是非同窓会役員まで、お知らせ下さい。

お知らせ

平成9年6月21日駒沢中学校創立50周年祝賀会において、同窓会より学校へ記念品として、講演台（校章入）1台、同窓会名簿一式をお送りいたしましたので、ご報告いたします。

今後、学校のさまざまな行事の時には、この演壇が活躍してくれることでしょう。



Memorial Note

3期

「初代校長 前川勝雄先生」

駒中は戦後6・3制教育の実施で、昭和22年5月3日開校しました。旧制の女学校の生徒が2年、3年に編入したので、私は制度上は3期生ですが、実質は新制中学1期生です。発足当時は校舎もなく小学校に間借りして授業がされました。新宿高校（旧府立六中）より赴任された初代前川勝雄校長の御苦労は駒中の歴史に長く伝えられていますので敢えてここで述べませんが、先生がこの駒沢の地を愛し、学校の発展を確信されていたことを忘れないで頂きたいと思います。

昭和62年の40周年行事には、病後の身で杖をついて祝典に参列して下さいましたが、平成3年87才で亡くなりました。葬儀の際私達卒業生は校歌を斉唱して出棺を送りました。今年は奇しくも7回忌です。学校の発展を喜んで下さっていることと思います。

ここで先生が長らく住んだ調布市の新聞に寄稿された文を御紹介します。

「よい教え子に恵まれて感謝。」前川勝雄85才。

一私は終戦直後新制中学校の校地選定から参画した。その創設期に苦楽を共にした生徒たちを今も忘れられず、生徒たちも今なお私と文通を続け、年に2、3回の来訪を欠かさぬ者も大勢いる。私は去る3月救急入院したが、意識が戻りかけた時ひとりが駆けつけた。私は彼女に「君たちは実に立派な生徒でした。ありがとう。」と皆に伝えてほしい旨遺言めいたことを話した。話はたちまち広がり教え子たちが次々に駆けつけてきた一中略一彼等の祈りが通じて私は奇跡的に危機を脱した。一中略一私はよい生徒たちに恵まれ、教師になってよかったと感激している。

「われ生けるしるしを問はば、駒沢中初代写真と教え子に聴け。」

現在在校生は二十一世紀に成人されますね。どうぞ駒沢中学を誇りに思っ、充実した人生を送って下さるよう祈って居ります。

4期

「待ちに待った引越」

私は、駒沢中学4期生（昭和26年卒）です。私達の同期生は、約150名で駒沢小学校の卒業生のはほぼ4分の3で占めていました。皆んな希望に燃えていた1年生です。校舎は駒沢小学校の裏門から入る仮住いで、左右の平家建2棟の校舎は、新入生の私達が、左側を、2年生と3年生（駒沢実践女学校の最後の生徒）が、右側を使いました。校庭は、小学生と共同使用でしたので、狭苦しい思いをしましたが、小学生達もいい迷惑だったと思います。入学式に、まだ校歌はなく、校長先生のお話だけで、終わったように思います。

当時は制服もなく、下駄ばき通学が普通でした。体育の時間には、運動靴に、はき替えたことを思い出します。50年前のことなので、記憶に乏しいですが、夏休みが近づく頃、新校舎の完成が、2学期の始めに間に合いそうだと聞き、皆んなで、大喜びしたことです。現在の駒中のあたりは、当時「探知山」と言う、昼も薄暗い松林の山でした。工事中に校庭の松の小枝を片付けに行ったことなどもあり、校門の前には、まだドブ川が流れていました。待ちに待った引越は、全校生でしました。

机は2人で1脚を、椅子は各自で運び、それは蟻の行列の様でした。道は砂利が多く歩くのに、苦労しましたが天気は良く、暑い日でした。右側は家が建ち並んでいましたが、左側は、畑の中に、戦争中に使用した高射砲の砲台と弾薬庫のコンクリートが残っていました。校庭は、広く感じ、特に左角には、野球用のグラウンドが出来ていたのと、しかもバックネット（金網と鉄板）あり、ベンチありで夢の様でした。でも校舎は、木造の2階建ただ1棟で、今の様な体育館もプールもない学校でした。卒業式等の行事は、2階の2教室を、ぶち抜いて行いました。教室と教室の境目の壁は、戸板であったので取り外し、机や椅子は、廊下に積み上げたのです。新校舎の落成披露は、生徒の作品（男子の茶すくい、女子のエブロン）等と、父兄からの寄附の品物による「バザー」を催し、祝いました。新校舎の掃除は当然厳しく、手抜きなしで床や廊下を、糠袋で乾拭きしていたので、いつも光り輝いていました。また校庭の正面に、築山が残り2年生の夏休みには、草刈に行く日程が、クラス別に組まれていました。蟬の鳴きたてる声を聞き、ヘビの出没に、おびえながら作業をしたものです。プールのない私達の水泳は、クラス別か、学年別に、先生の引率で、二子玉川の兵庫島付近まで行きましたが、今思い返してもとてもたのしい思い出となっています。3年生になると、進学組と就職組に、分かれることとなり、友達との会話の内容が、少しずつ変わってきましたのが、現実とはいえ悲しい思いがしました。進学する人は、全体の3分の2くらいで、都立高校をめざす人が多く、受験科目も8科目もあり大変でしたが皆んなよくがんばりました。昼間に働き、夜学に行く、生徒も多数いました。卒業から、3カ月後に、朝鮮戦争が起きた時代でした。

7期

「駒中の思い出」

この度、7期を代表して何か「思い出」をとの投稿依頼がありましたので懐かしさのあまり、拙文を顧みず筆を取らしてもらいました。私が弦巻小学校から駒沢中学校に入学したのが昭和26年で、当時のクラス編成はABCの3クラス、各クラス53名程度でした。駒沢小、弦巻小からの生徒が多かったため比較的スムーズに中学校の生活に慣れることができましたが、小学4年の時に父を亡くしたこともあり、中学を卒業すれば就職しなければならない家庭事情でしたので後半は少し投げやりな生活を送っていたほろ苦い思い出が残っております。そんな雰囲気の中でも前川校長の毅然とした説得力のある朝礼での挨拶、時として進路を踏み外しそうになった私をうまく方向転換して頂いた山口先生、社会科の授業の時に折にふれ社会人として生きていくために必要ないろいろなことを教えてくれた石山先生…。今、振りかえって見るとそれなりに充実した日々を過ごすことが出来た駒沢中学校に限りない愛着を感じるところであります。卒業後は手に職をと、アルバイトをしながら得意な理工系を生かすべく工業高校に進み、卒業後運輸省に入省、航空無線一筋に38有余年の生活を送り、平成8年に退職、現在は民間会社で第二の人生を送っております。会社が池尻大橋に近いので最近では駒沢大学駅から歩いて実家に立寄る機会が出来、その時に駒沢中学校の前を通るのですが昔の面影をわずかに残しているタンチ山を眺める所ではしばしば足を止めての一時です。

最後になりましたが7期（昭和28年度卒）のABC3クラス合同クラス会が有志のご尽力により、平成8年6月8日東京ガスの青山クラブで21年振り（私は卒業して初めて）に、山口、宮城、石山先生を囲んで開催されました。最初のうちは戸惑いでしたがすぐに和気合い合いとなり楽しい一時を過ごすことが出来ました。今年は駒沢中学校創立50周年を迎えての記念事業として「若竹会会員名簿」を刊行するとのこと、今から発刊を心待ちしている一人です。名簿刊行委員会の方々ご苦労様ですが頑張って下さい。

11期

「駒中ファイト！」

駒中—ファイト！オッ—！ファイト！オッ—！と、気合の入った掛け声を発って走る一群（25～30名）があった。昭和30年、我々陸上部員が「たんち山」等武蔵野の風情漂う境界を、雨の日も風の日も力走するそれは勇姿でした。

陸上部の顧問は新任したばかりの今は亡き木村国次先生でした。渾名「雷魚」。因に他の先生の渾名は、ライオン、インデアン、河馬、白豚、黒豚、ペリカン等、宛ら動物園にでも来たような楽しさを覚えたものです。我々部員は「雷魚」先生の献身的なご指導により世田谷区や、東京都主催の短・中、長距離走や駅伝大会にエントリーし、優勝、もしくは上位の成績を収めることが出来ました。

今も鮮明に残っている記憶は、昭和32年12月22日、東京都陸上競技会主催の皇居6周の駅伝大会で、駒中は11位の成績。私も幸いにも区間賞を得ることが出来ました。翌年、東京都中学体育連盟より、テニス部で2人が陸上部では私が体育優良生徒の表彰の栄に浴することが出来たのです。これもメンバーの友情とチームワークの賜と感謝をしています。新入部員もどんどん育ち、一時期は「陸上の駒中」を世田谷区内に轟かせ、日体大等の選手も練習振りを見に来たこともありました。

卒業後、24年が経ちました。ある日、陸上部の鈴木君より電話が入り、昭和57年9月、急遽陸上のメンバー5名が私の会社で再会しました。当然酒の勢いもあって他の陸上部のメンバーに電話を掛けまくりました。10月には熱川のみどり館（土屋君の旅館）に於いて雷魚先生を中心に駅伝メンバー7名【荒川、稲葉、沢永、鈴木、土屋、村上君と私】が再会し、同期会開催へと一機に動き出したのでした。A～H組までの8組の幹事会を数回開催。昭和58年3月27日銀座アスター三軒茶屋資館に於いて、恩師15名、同期生147名が25年目にして感動の再会を果すことが出来ました。しかも、この度の創立50周年を機に、本年5月24日石山秀太郎先生を囲んでG組（28名出席）のクラス会も開催することが出来ました。結びになりましたが名簿発刊委員会皆様の労苦に心から敬意と感謝を申し上げます。

創立50周年誠にありがとうございます。

Memorial Note

12期

「いつのまにか少女に」

卒業式が終わって、みんなと別れを惜しみながら、何度も校門を振り返った。

長い時が流れて、初めての同期会は感動の再会だった。さすがに、容ぼうは変わっている。が、目の前にいるのは、紛れもなくあのときの友人たち。愛称で呼び合ううち、不思議なことに、いつのまにか少女に。さながらメルヘンの世界のようなだった。楽しかったことが断片的に浮かんでくる。

休み時間はよく遊んだ。5、6人で長い馬を作り、助走して飛び乗る。衝撃で崩れるとみんな、おなかを抱えて笑った。

当時の流行歌に「オーイ、中村君」というのがあった。調子のいい曲なのでみんな口ずさんでいた。国語の授業中、仲の良かった友達が指されて教科書を読んでいる。と、「オーイ、中村君」と言った。一瞬、我が目を疑う。そこには「オーイ、山田君」と書いてあった。教室は爆笑だった。

夏休みは明大や松陰プールで泳いでばかりいた。登校すると「いちばん黒くなったのは誰でしょう」と、富田先生がおっしゃった。みんなの視線を浴びた。

このごろ、よく自転車に乗る。家の近くに河口が江ノ島の、境川がある。川沿いが歩行者道路になっているので絶好のコース。思い立ったときに出かけてみる。

20キロメートル余りの道のりを、2時間ぐらひかけてのんびりと行く。土手やあぜ道に咲く四季折々の花や、川面に遊ぶ鴨たちに心がなごむ。空を見上げると、雲の移ろいも面白い。

やがて、流れが緩やかになり、潮のかおりがしてくると、思わずペダルに力が入る。

海には、ときめきがある。懐かしい友に、出会ったときのような…。

ぼーっと眺めたり、スケッチしたり、気ままな時間を過ごす。さわやかな潮風に、心身共にリフレッシュする。

又、元気で旧友に会えるのを楽しみに。

15期

「うれしくて胸がときめいたあの頃」

中学生の頃の自分は体力はなく引込み思案でケンカも出来ず、全然目立たなかったと思います。

そんな私でも絵画と音楽の時間は大好きでした。木々がおひ繁った「タンチ山」の中の音楽室はととても素敵な思い出として残っています。最近では木々も少なく山も小さくなって残念！これも時代の流れか。

公然と女生徒と手をつなげるフォークダンス。

気になっている女生徒の順番が段々近づいて来る。うれしくて胸がときめいたあの頃は、何んて純情な年代だったのでしょうか。

京都への修学旅行

夜はおきまりの枕投げ、そしてみんな寝静まった頃に、どこからともなく微かに聞こえてくる当時のヒット曲、デルシャノンの「悲しき街角」。とても哀愁味を帯びて聞こえて来たのを鮮明に思い出します。

帰りに買った「エリーゼの為に」の小さなオルゴール、今でも大切に取っております。

現在は「東京ギターフォーラム」の一員として音楽活動に携わっております。

17期

「役員の皆様ご苦勞様です。」

私は昭和39年卒の と申します。

1986年より仕事でアメリカのカリフォルニアに滞在しており、現在登録している住所は私の親元のもので、今回のお問い合わせの件、手違いから私に届くまで時間がかかってしまいました。返事が遅くなって申し訳ありませんが、取り急ぎ連絡カードをFAXします。もう間に合わないかもしれませんが…

同窓会名簿の費用は、日本から送付手続きをとりますので今しばらくお待ちいただきたくお願いいたします。

また、何か書けとのご下命ですが、未だ間に合うなら書きますが多分もう締め切られたと思います。大変申し訳ありませんでした。

ご存知かどうか、よく数えたらもう25年以上も前の話ですが、団村さん に頼まれて同窓会の手伝いをしましたが、当時はガリバン刷りの名簿でメンテが大変でした。私の代で扱ったのではないかと長い間危惧しておりましたが、今回の役員の皆様のお名前を拝見して安心いたしました。

加藤さんのお名前も存じあげてますし、下山さん もよく覚えています。下山さんは私のこと覚えてますでしょうか？覚張さん どうしてますでしょうか？

すみません、遠いアメリカで突然40年以上も前の駒沢時代を懐かしく思い出しまして…。

6月21日の記念式典、御盛会をお祈りいたします。

19期

「環境が担う大きな力」

雨の日曜日、1人仕事場にいる。たまってしまった家事を、アルバイト代を弾んで、サッカーに行けず家にいた中学生の息子に押し付けてきた。メ切が5日後に迫っているのだ。

中学時代のエピソードはないものか。思いっきり笑ってしまうような…。そういえば、「私、この頃学校がつまらなくて」と正直だが軽率な発言をし、一瞬見せた父の苦しい表情にかえってとまどった思い出ならある。心配してくれる人がいることを実感した経験でもあり、以来この手の愚痴は控え目にしている。だから娘や息子が中学生となり、程々に学校生活をこなし、所在無さそうにしているのを見るにつけても「まあこんなものかしら」と高をくくっている。案の定、高校生となった娘は生き生きとたくましくなってきた。今日も日曜日だというのに吹奏楽の演奏会を前にイソイソと学校へ出掛けてしまった。(家事手伝いなど入り込む余地も無い)

さて、当面の私の仕事の対象が、ちょうど自分が学んだ時代の校舎なのだ。その改修の設計を行っている。40年を経た今も相変わらず何とも味気無い。残念ながら当時お気に入りの場所などなかった事もうなずける。うさぎ小屋と言われようと、我家にさえそれなりにある雰囲気は漂っていた。同時期の公共建築、たとえば世田谷区民会館は小学生だった私にとっては刺激的だった。打放しコンクリートと洗練された色彩や素材の対比が美しかったし今もなお魅力的である。優れた建築家と情熱を持ってそれを実現させた人々のおかげである。校舎の良し悪しも建築家の能力に依る所が大きいのだ。そしてその建物を含めた環境が発するメッセージ、これも文化ということができる。

私は今、その建てられてしまった巨大な校舎達を前に、先生方の人間的役割とは別の方向から、環境が担う大きな力を信じて、パートナーに支えられつつ、微力ながら、少女だった頃の私がOKサインをくれそうな空間創りを目ざしている今日この頃なのです。

Memorial Note

21期

「熱中時代」

昭和40年春。私達は駒沢中学校に入学した。少し大きめの制服に身を包み、帽子を目深に被って、初めて校門をくぐった時、ちょっぴり大人になったような気がした。期待と不安の入り交じった複雑な気持ちだ。それでも、迎えてくれた3年生の何と大人に見えたことか。おっかないくらいだった。なにしろ番長がいたから。

先生も怖かった。理由は忘れてしまったが、職員室に呼び出されて怒られた。こんこんと説教された。家へ帰して貰えるか心配だった。最後に言われた。「もっとうまく叱られろ。」大人になるって難しい。

なぜか女の子がまぶしく見えて仕方がなかった。昼休みのフォークダンス。好きなあの娘の柔らかな手に触れた時、胸がドキドキした。熱い思いを伝えるなんてとてもできなかった。純情だった。

あの頃はとにかく何にでも感動し、共感しそして追究した。今でこそ当たり前のエレキにのめり込んだ。ビートルズ、ローリングストーンズにベンチャーズ。ノーキーのばかテクをなんとかコピーしようと指の皮がすり剥けるまで弾いた。臆面もなく体育館で開催されたチャリティーコンサートにも参加した。

T君の発案で水泳部を創設した。部員数は校内一を誇った(と思う)。運動場を10周した後1000m流すのが準備運動だった。練習はそれからだ。ひと夏、雨の日も休まず泳ぎまくった。やがてそれぞれの進路を決める高校受験が待っていたというのに。

状況は人それぞれだったかも知れない。でも、みんな純粋で純情でそれぞれの目標に向かって限り無く情熱を注いでいたに違いない。あの頃の輝く日々を共有した友達がいて、何年経っても覚えていてくれて、語り合えるって幸せなことなのかもしれない。4年に一度といわずもっと会おうよ。…ね、みんな。



第21期同期会（4年に1度のクラス会。下北沢タウンホールにて。平成8年3月20日）

22期

「駒中は永遠に不滅です」

創立50周年おめでとうございます。

駒沢中学校を卒業して、もう28年が過ぎたのだという事を実感し、時の流れの早さに驚いています。

私は、石川章先生担任の3年B組の時に初めて同級生となった山本優クンと結婚し、今では3人の母親になっています。今年3月、長女が駒中を卒業し、4月に長男が駒中の新1年生、次男は来年、同じようにお世話になる予定で、家族全員が駒中卒になる訳です。

ダンナ様であるクンは、2年前、表参道に「青山水族館」という熱帯魚店をオープンした為に忙しく、クンは仕事、私は子育て、となかなか共通の時間を持つ事ができない毎日ですが、結婚以来、喧嘩もせず当時と変わらない関係のままお互いに年をとっています。まあ、2人の時間は老後にとっておきましょう。

あの頃の思い出はいろいろあります。今では新幹線で行く修学旅行も夜行列車で行き、いつでも寝ないで遊んでいた為、石川先生に怒られたり、卓球部のモツちゃんこと、本杉昇クンや三宅クンの試合に駆けつけ、大声で応援したり、デンベイ先生（高橋先生）のおかげで、私は英語が好きになり、ハンドボール部だった山本クンは、金子先生にお世話になったり…。お上品な雰囲気の大和先生（音楽）も忘れられません。

現在の駒中は、立派な体育館、格技室、プールを備えた鉄筋校舎になり、昔のおもかげがないのが残念です。でも、これは仕方のない事です。ただ、タンチ山はこれ以上小さくなってほしくありません。当時のタンチ山はもっと大きく、図書館がありました。その回りでよく遊んだものです。夢中になって走り回って、汗をかいだ体を休める時、目の前には、自分達の木造校舎が…。ああ、なつかしい。そう、何年経っても、私達の駒中は永遠に不滅です！

24期

「タンチ山と入学式」

「オーイK！」入学式にのぞむ、はりつめた空気の中、大きな声がひびきわたった。

「おまえは、中学に来て、やっぱり一番背が高いなー。」同時にどよめきが上がり、新入生の視線は一斉に私に向けられたのであった。

友人Tの一声により、たちまち私は、新入生みんなに名前をおぼえられることになったのである。あれから20数余年、友人Tは、松本で家具工房をひらいている。

駒中の思い出といえば、この出来事とタンチ山である。先輩から語りつがれたタンチ山の由来は、「むかし、タンチという　　が住んでいて、図書館をたてる時に、追い出されたんだ…」というものであった。

当時の中学のまわりには、自然が残っており、緑多く、またあちらこちらに小高い丘がのこっていたと記憶している。

我が子が、中学生となった今、多感なころをふりかえると万感たる想いがこみあげてくる。

緑深きタンチ山。私が想う駒中の風景である。

Memorial Note

25期

「思い出のページ」

「駒中」の同窓会名簿発刊のお知らせを幹事の方から頂き、何ともいえぬ感慨が全身を駆け抜けました。今年で創立50周年ということは、私達25期生は、全卒業生のちょうど中間に位置することになります。40を過ぎ、人生の折返し点を越えたばかり、激動の世の中の真只中でややもすると日常生活に埋没しがちな私達にとって「駒中」の響きは自分の心の中の「汚れた日常の垢」を洗い流してくれるものでした。

中学時代、それはたった3年間でしたが、誰にとっても心に残る貴重な時期であると思います。自我にめざめ、思春期に差しかかるこの時期、友達とこんな事があった、異性の生徒のことが忘れられず片思いに悩んだ、受験勉強に追われる日々があった…等思い出せばきりがありません。

現在、私は当時の家に住んでいませんし、住まいも日本全国点々としましたが、今でもたまたま駒中の近くを通りがかったり、あるいは在学当時に流行った唄を口ずさんだりする時、懐かしかつ甘酸っぱい思い出に胸がふくらみます。

駒中卒業後、高校～大学生の時分、駒中の同窓会役員を務め、母校で総会開催を運営したことがあります。その時は卒業後すぐの、学生時代のことでしたので、社会に出て20年近くなろうとしている現在の同窓会活動はその時分のこととは比較にならぬご苦労があると思います。その意味で幹事の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の同窓会名簿の発刊を機に、駒中同窓生の、同期はもちろん、先輩・後輩同志の「縦の交流」が進展することを祈っております。

公立の中学としては恐らく数少ない、強固な同窓会活動の礎が築かれるであろうことを確信しております。

28期

「本土・沖縄豆記者交歓会」

母校、駒沢中学校創立50周年おめでとうございます。OBとして、学区内の住民の一人として心よりお祝い申し上げます。

私にとって、駒中の思い出は数多くあります。確か記憶では、旧正門や木造校舎最後の生徒だったように覚えています。新校舎落成に伴い、放課後等に校庭整備をみんなでやったことを昨日の事のように思い出します。また、学校給食が始まったのも我々が3年の時でした。

いろいろなことがあった中で、個人的に生涯忘れられない思い出があります。それは、2年の時に区内の松沢中・八幡中の生徒さんなどと一緒に沖縄に派遣されたことです。当時12回目を数える「本土・沖縄豆記者交歓会」の総団長として、北海道・長野・大阪の中学生や引率の先生（駒中からは、当時の稲葉速水校長先生）と訪沖しました。沖縄県内各地（那覇・名護・宮古島・与那国島等）からの生徒さんを夏休みに本土に迎え、逆に、冬休みに我々が訪沖するというものでした。駒中に来たときは、たんち山の上にあった図書館で歓迎会をしたものです。この時から私と沖縄の関係が出来、以来現在まで毎年、年に3～4回は沖縄にいらしています。

これらを含め、在学中はいろいろな先生方にお世話になりました。担任の奥住先生、米田先生、正村先生、浜田先生、加藤先生、神永先生、弘末先生、小森谷先生、江尻先生、そして学年担当は違いましたが古賀先生、河田先生にも大変お世話になりました。何のご恩返しもできずにおりますことをお詫びし、この場をお借りして衷心より御礼を申し上げます。

何だか訳のわからない文章になってしまいましたが、とにかく人格形成に一番大切な一時期がこの駒中で過ごすことが出来たことは、私にとって非常に良かったと思っております。

今後の母校の益々のご発展を祈念して、筆を置きます。

31期

「田中先生のプリント」

中学時代に今思い出を馳せてみる。一女の子同志の他愛のないおしゃべりに、仲々別れがたい帰り道。純粹であるがゆえに多くのものに反発してしまう日々。一良いことも悪いこともスポンジのように吸収し、それに一喜一憂していた。その純粹で若い気持の片隅に、ほんの目立たぬ小さな杭を打ち込まれた。それからの人生の中で、ごくたまに、心の中で思う思い出があった。

中学2、3年の担任であった田中主計先生がホームルームの時間に配ったプリントがあった。それはある文章の抜粋だった。「父と息子が山に登った折、伐採された木の年輪を見て父は息子にたずねた。『なぜ年輪の芯は北向きに寄っているのか』太陽をいっぱいにあびて育つ南側は豊かに成長し年輪の目の幅は広い。北風を受ける北側は寒さと戦い年輪の幅がせまいから、芯はその方に寄るのだ。しかし、伐採され用材となる時、南側は「板」となり北側は「柱」となる。つまり、逆境を生きぬいた人間は、「板」にはならんが「柱」になれるのだ。父はそう語った。」という話だった。

田中先生は社会科の先生で、当時、駒中に転勤されてきて間もなかった。静かな口調でされる日本史の授業を覚えているが、先生の配るプリントは歴史上の意味深いものが多く、几帳面な文字でいっぱいだった。当時はまだガリ版で、わら半紙。先生の手作りプリントのうち、この一枚はずっと私の手元にあった。このプリントに勇気づけられた私は、何かつらいことがあるたびに、これを自分を励ます材料にしていた。

20年が過ぎて、随分と心のスポンジは固くなったような気がするが、今ここに、黄ばんだ一枚のわら半紙を手にして思う。先生が生徒のために、一枚ずつ刷って下さったこのプリントのありがたさを。

32期

「駒沢中学校と生き方」

私が駒沢中学校に昭和53年に転校してきてから、級友達は自由に自分らしく生きているなと思いました。それは、とても素晴らしい事だと思います。私は転校をしてきてから、部活動はしていませんでしたし、郷ひろみと桜田淳子のファンクラブに入っていました。

私は、駒沢中学校はたったの1年しかいませんでしたが、甲斐先生という素晴らしい担任に巡り会えた事が大変、幸せだったと思います。

先生は常に、人に迷惑をかけない範囲ならば、自分の人生なのだから自分で選択して、好きなように生きるのがいいと私に言ってくれました。私は昔から優柔不断で、小さい頃から習っていた稽古事とかは、特にありませんでしたが、何事も両親に反対をされると、強く自分の意志をつらぬき通す事が出来ませんでした。高校時代はマルエツやサミットストアとかでアルバイトをしていたのですが、高校を卒業する時に、航空関係の仕事につく専門学校へ行きたかったのですが、両親に大学でないので反対をされ入学出来ませんでした。ギリギリに決まった就職は、ある会社の事務員とモンブランのウエイトレスでした。私はアルバイトでもウエイトレスはした事が無いという理由で、会社の事務を選びました。航空関係の専門学校はお金がたまったら行こうと思っておりました。結局、英会話学校へ通学し、英語力とか、受かるような勉強をひとりですて、お金をためた後、平成8年の1月から半年間、通いました。

現在は、横浜市に住んでおり、川崎日航ホテルとかの宴会場で働いております。過去に勉強した事は無駄にはなりません。

同世代として松田聖子の生き方は、見習うべきだと思います。フローレンスセイコを見て、デザイナーとしての才能はいまいちですが、自分らしく輝いていると思います。

Memorial Note

39期

「部活の思い出」

創立50周年おめでとうございます。

小学校を卒業し中学に入学した4月、私にとって初めてのことでびっくりしました。制服、先輩、タンチ山…2、3年の先輩はとても大人っぽく見えました。私が中学時代の3年間で一番思い出に残っているのは部活動のことです。1年の頃から私はバドミントン部に入部していました。小学校時代、体育が得意ではなく体力がなかったはずなのにどうして入部したのか今では不思議です。1年の頃の練習は、かなり厳しいものでした。バレー部やバスケット部に比較すれば、らくだったのでしょうか、やはり辛いものでした。練習の始めはいつもストレッチで腕立て、空気イス…もう忘れてしまいましたがいろいろありました。あのストレッチは、つづいていのでしょうか？夏休みに入ってからすぐの頃、はじめてラケットを持たせてもらいとても嬉しかったことを覚えています。やっとコートに入れてもらって先輩に相手をしてもらいシャトルの打ち合いをしました。1年の頃は体力を身につけることをしていたように思います。2年になって初めて区大会に出場しました。他の中学に行き試合をして負けてばかりでダメな部員でしたが、それでも練習には出ていました。練習は私にとって義務になっていたのかもしれませんが。後輩が入部し自分達は指導する立場になり最初は指導するのは少々恥ずかしかったり、かわいそうと思いました。2年の秋か冬か体育館の建て直しのため練習は近くの中学校や小学校の体育館をお借りして合同で練習させて戴いたりしました。なかなか味わうことができない貴重な体験をしました。3年になり受験生となり夏休みが終わった頃にはほとんど出席しなくなりました。

今でも部活時代の友達が遊びに来ると、あの頃の話が出ます。私の娘が自分から部活に入部すると言ったら、最後までやり続けることが大切と伝えてあげたいと思います。

41期

「『思い出』を辿って」

若芽の色が目立ち始め、これから伸びゆく期待感あふれる時期を迎え、母校駒沢中学校は、創立50周年にいたりしましたこと心からお慶び申し上げます。

創立50周年という言葉を目にした時、どれ程多くの方が、母校の門をくぐり、育み、送り出してきたのかを考えました。するとなぜか母校の存在がとても大きく思え、ここで思い出を育んできた実感が込み上げて参りました。

在学中は、多くの体験をさせていただいたにもかかわらず、母校や縁あって携わった先生方、また、同期の仲間に対して好き勝手に生きながら、荒っぽい触れ合いをしてきたことが過ぎ、思い出よりも反省が先に立つ次第でありました。

入学の時は、小学校からの仲間が、ほとんど進学することに決まっており、気軽ではありませんでしたが、半面、まだ見ぬ中学校生活に、不安と緊張の色も入り混じったことを懐しく思います。

中学校生活は多くの人が関与して、生徒一人一人の感性が芽吹き始める時期でもあるせいでしょうが、様々な事柄へ直面する度に、個性のぶつかり合いが絶えず続き、中学校生活を支える方々のご苦労は、並大抵なことではないと頭が下がる思いであります。

しかし、今になって考えるとそうした体験も糧となり、目には見えない心のあり方、動きが実際の行為行動につながる奥深さを噛み締めております。現在はこうした背景が手伝っているのか、心のあり方に重点を置く仕事へ従事しております。これも母校で経験したことが、今でも心の中で息づいているからかもしれません。

これからも年月を重ね、多くの卒業生へ思い出を刻み込んでゆける味わい深い母校駒沢中学校となることを、心よりお祈り申し上げます。

44期

「尾瀬への合宿」

私の中学生時代を振り返ると、学校よりも塾を中心にした生活をしていたので、授業中居眠りや塾の宿題をしていたり、部活は早退したりさぼったり、とんでもない子だった。

精神面の発達の上で重要な思春期なのに、受験勉強に夢中になっている私を、1・2年の担任であり、部活の顧問であった松林先生は、どう思っていたのだろうと最近考えたりする。

今、私が、塾通いやテレビゲームに夢中になっている子供達を見て心配になる様に心配していたにちがいない。

そんな松林先生に、2年の夏休み、部活の合宿で尾瀬へ連れて行っていただいたことが、とても印象に残っている。

塾を休むことに抵抗を感じつつも参加した合宿であったが、初めて触れる尾瀬の大自然に感動した事を覚えている。

ところで、現在、私は大学で管理栄養士になるための授業や実習、卒論研究で忙しい生活をおくりながらも、大学に入ってから始めたいろんな事を楽しんでいる。

そのひとつに山登りがある。

忙しい授業の合間をぬって、沢山の山々を仲間と歩いた。尾瀬へも、春の水芭蕉の季節に2度訪れた。

こうした息抜きによって、気持ちが潤うことを知った。

また同時に、自分の中学時代を振り返って、中学という貴重な時間をもっと楽しめなかった自分を苦々しく思うことがある。

でも、そういう時期があったからこそ、今の自分がいるとも思っている。

45期

「原点」

高校・大学と進むにつれて（少なくとも見かけ上は）周囲の人間がより等質的になってきたように思える。一つの尺度によって可否を決めるシステムに沿って進んできたのだから当たり前である。

だが、駒沢中には合格も不合格もない。この地域の色々な種類の人間が集まってくる。だから、色々な人と会い、色々な人と接することができた。もちろん、好きな奴もいれば嫌な奴もいた。それぞれに違う世界を持った人間がごちゃごちゃになっていたから、自分の世界をもっと広げることができたし、面白くもあるはずだった。

だが、個人的には、中学時代より、高校・大学と進むにつれて楽しさも充実度も増してきている。似た者同士だから楽しいのだと言えるのかもしれないが、それよりも高校入学以後、様々な経験を積むことを通して自分自身少しずつ鍛えられてきたのだと信じている。だからこそ素晴らしい舞台を与えられながら何もしないままに過ごしてしまった中学時代が悔いとして残る。成人式の日、久しぶりに中学時代の仲間達を見て、痛烈にそう思った。

しかし、このごちゃまぜの世界を通過しなかったならば、狭い世界しか知らずに似た者同士で群れていきがっているだけの、相当なヘナチョコになってしまっていただろう（今でもそうではないとは言えないが）。

その意味で、駒沢中を卒業したことを誇りに思っている。そして、駒沢は、楽しい思い出も、後悔の思いをも含めて私の原点であり続ける。

Memorial Note

46期

「不滅の個性派教師」

「ならティー」「かっさん」「いとぴん」「くまさん」…

いつの時代にも先生には「あだ名」がつけられます。したがって私達生徒が先生を呼ぶときには表では「〇〇先生」裏では「ならティー」などのように呼んでいるわけです。

しかし、このようなあだ名はけっして陰口をたたいているようなものでなく（例外あるかも？）それぞれの個性を表しているものだと思います。

いつの時代にも個性的な先生がいらっしゃるからこそ私達も個性豊かな人間に育っていくものだと思うのですが、さて私達46期の時代にも個性的な先生が多かったように記憶しています。

一見すると怖そうであるが心のやさしい加藤先生、自身の名前を紹介するときに「みどり」を「美鳥」とおっしゃるぐらい美しかった？大柳みどり先生、いつもクールな神保先生、いつもおもしろい？ギャグで生徒を魅了した伊藤先生、生徒に理科の本質を語りに語りまくった湯浅先生…

中学時代にこのような個性派教師に出会ったのは一生の財産である。そして個性派教師は永久に不滅である。

47期

「有意義な時間」

中学を卒業した時、これからの全く新しい生活に希望で胸を膨らませたのが3年前。中学校に足を運ぶなど考えてもいなかった私。ところが一本の電話が私を度々中学校に足を運ばせることになる。

陽の光も暖かくなりつつある晩春の頃の日曜日であったと思う。遠くで雀の井戸端会議が聞こえる中、電話の機械的な音が、目覚しとなった。寝ぼけた私は日時、集合場所を覚えるのが精一杯でした。私がある場所へ行くと、懐かしい顔ぶれが何人かそして、知らない人も数人座っていました。その場で、集まりの目的を聞き、早速、作業に入りました。学校にある名簿を書き写す。これが作業です。普段、鉛筆を握り慣れていない私は最初誤字だらけでなかなか、しんどい作業ではありました。2回目に行った時、同じ年の人間は減っていました。そして最後には土井君と2人になっていました。いい迷惑です。

そんな作業もあとは業者をお願いすることになり、作業も終わり、やっと肩の荷が降り安心することができました。加藤さんのお店でおいしいものを沢山ごちそうになったとき「やってて良かった。」と心から感激しました。もちろんみなさんの人柄の良さ、雰囲気の良い、本当に勉強になったし、楽しく、有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございます。そしてこの名簿もきっとみなさんのお役に立つと思います。

最後に余談ですが、土井君、中学のカラオケで歌った演歌は上手だったね。それにつけて富士山はでかい。にもかかわらず君のおなかは、六本木を、ステテコはいて歩くきれいな女性ぐらいすばらしい。

48期

「中学校との接点」

中3の卒業式前、知らない間に『同窓会幹事』になっていた。別に同窓会関係のことをするのは嫌ではなかったので「やってみようかな」というような簡単な気持ちでいた。

高1の4月のある日曜日に集まることになった。48期生の人ほとんど集まり、他の代の人もあった。まず最初にしたのは、各代で2人理事というものを決めることだった。中学時代にずっと学級委員をしていたこともあり、このような役職好きもあって理事となった。

理事を決めた後は同窓会幹事としての仕事開始。旧住所を新住所に改めるために、卒業生の住所を用意された紙に写す作業をした。月に1度日曜日に集まるようになり、2時間住所を写す作業をした。多少はおしゃべりもしながら…。仲の良い子を途中幹事に引き込みながらも本当に楽しくワイワイしていた。50周年記念の名簿ということでセッセと働いた。

途中、学校の行事などで集まりも中断してしまい、仲間内でも心配していたが、幹事会も再会。しかも名簿写しに期限まで付いていた。私たちも今まで以上に手を動かしていた。おしゃべりも相変わらずで。期限近くになると本当にハードで、分担された分を持ち帰る人がいる程に。各代ごとに毎回出席確認などもして毎回出席した人は2人ほどしかいなかったけれど、出席した人はみんな、頑張って仕事をしてました。名簿写しの仕事がほとんど終わってしまうと、幹事会としてやるのがなく、またいつ集まるかわからない状態となってしまう。また何かやることが見つければ幹事会で集まりたいです。

とりあえずいつまで続くかわからない幹事会だけど、ずっと中学校との接点があるということは何かうれしい気がします。名簿を作ることにに関して表と裏が見れた気がします。

いろんな人と協力し合って出来た名簿は、中学時代の人との連絡に役立てて欲しいです。今回は本当に『お疲れ様』という感じです。

49期

「駒中に感謝」

私は、駒中が好きでたまらなかった。学校が先生が友達が、大好きだった。どうして夏休みが、日曜日がこんなにあるのか？それほど登校という言葉に、嫌悪を感じるということではなかった。そして、『卒業証書』という悪く言えば紙切れ一枚で、みんながバラバラになったことを、私は今でも他人ごとのように思えてならない。だから私が幹事になって同窓会を、クラス会を何度もやろう。バラバラになったみんなを、集めてしまえ。私はそのような思い入れから、幹事を希望したのである。

けれど実際、勉強、部活動、と忙しい高校生達を集めることは、『たまごっち』を入手することよりも難しく、幹事といっても名だけだった。しかし、そんな私にも名簿制作という仕事が与えられた。

今までに駒沢中学校を卒業した方たちの名前が勢揃いして、それを片っぱしから書き写していく作業が始まった。けれどそこには、ずいぶん昔の物があり、字が掠れていたり、読みづらい字で悪戦苦闘。ましてや、期末テストの1週間前をきった時期にもかかわらず、この作業を宿題とされる始末。正直言って、率先してやれる仕事ではなかった。とは言え、それもこれも、駒沢中学校の50歳の『BIRTHDAY』の為。それならば……。

別れは新しい出会いの第一歩と言うが、私にとって駒中の別れは辛く悲しいものであって、決して新しいスタートの喜びとは言えないものだった。今、改めて駒中に入るとさすがにテレクさく、ためらいを感じてしまう。

この場所であんなことがあったっけ…。この教室では…。この席では…。たった1年前のことなのに、懐かしくて懐かしくてー。

いろいろな思い出と共に、忘れ難い先生方、離れ難い友達。そして、3年間お世話になったこの駒沢中学校に、私は感謝!!

Memorial Note

50期

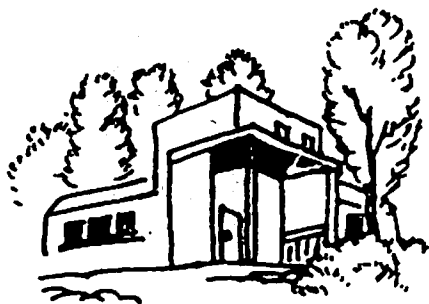
「中学3年間の思い出」

この3年間、いろいろな事があった。つらい事や悲しい事、嬉しい事など様々な事があった。緊張していて何がなんだかわからなかった入学式から始まり、これから行なう卒業式で幕を閉じるつもりでの3年間だ。もうそろそろその幕も閉じられてしまう。とても短かった3年間である。

私はこの3年間にたくさんのことをたくさんの人から学んだ。人や物に感謝することの大切さや人の気持ちになって考えることの大切さ、さらに勉強やスポーツ、常識的なルールなどを先生や友達、親からも学んだ。その人たちには感謝している。この3年間で学んだことを忘れずに、今度は私がたくさんの人にそんなことを教えてあげたいと思っている。

また、私は、この3年間で人間的にずいぶん大きくなった様な気がする。そんなふうに思い始めたのもきっと先生方や友達、また両親がずっと私を支えてくれたからだと思う。つらい事や苦しい事があると、みんなは励ましてくれ、応援してくれ、そこで私は一歩ずつ大きくなったのだ。

いろいろあったこの3年間、本当に楽しかった。中学時代で作った思い出は、いつまでも私の胸の中におさめられていることだろう。



「未だ、『統括』できず」

4期

私にとって駒中時代は、『懐かしい』を何回も重ねて言いたい程の、人生のホットな、貴重な時代であった。

だがそれに比例して、職員室では、問題児ではなかったかと思う。勿論、バックアップをして下さった先生もおられたが…。別に悪いことをしたわけではない、本人は、至って真面目に、一生懸命にやっていたと思っている。

それでは、私が、どんな問題児だったのか、50年前の駒中の様子をご紹介方々、皆さんのご判断を仰ぎたいと思う。

なお、あらかじめ、説明の『独断と偏見』は、お許しをいただきたい。ただし、現在とはあまりにも違う世の中の話なので、旨く語れるかどうか…。

1年の時も、2年の初め迄も、なにもなかったわけではありましたが、まあ勉強の方にいそしんでいたように思います。

まずは、2年2学期末(1948年・昭和24年12月)のことから始めましょう。

世田谷区の中学校の、自治会連合会を作ろうという話があり、2年生でしたが、駒中を代表(2Aの私と岡本さん、2Bの大谷君と鈴木さんの4人)して、会議に参加しました。もう中学生ですから、先生は同行せず、生徒だけでした。なぜ3年でなかったのか、覚えていませんが、時期として分かるような気がします。確か、提案したのは「梅が丘中」で、場所も同校でした。

よその中学のレベルの高さに引け目を感じたくせに、『お互い刺激しあおう、協力しよう』という趣旨に共感してしまった私は、何かと積極的に発言したせいか、連合会の規約の原案作成を頼まれてしまいました。

当時、駒中の生徒会規約もなかったのではないのでしょうか？まして、生まれてこのかたやったこともなく、正直、どうしたらよいか、途方に暮れました。

現在のわが国社会は、法治国家として、法律を初め、あちらこちらで毎日多量の規定が生産され、至る所に規定が存在しているので、何かあればどこか似たようなものが見つかります。

当時(昭和24年)は、未開発国家の時代、まして初めての組織化、参考になるものがある訳がありません。先生の方だって私と同じだったと思い

ます。なぜなら、かなり重要な仕事だと思いますが、余り身を入れてもらえなく、結局私一人で作りましたから…。

実は、その時唯一あった、駒中PTAの規約を活用(ヒントは、国語の中西先生?)し、「主語」と「述語」を適当に代え、持っていったのです。中身が全然違うので、いろいろ指摘され、それは『お恥かしい』ことの多かったことか…。

この話は、2回の参加で、『もう宜しい』と言うことになりました。

その種の対外活動が、好まれなかったためと思いますが、『任せておくと、肥田はのめり込んでしまうぞ』という懸念が結論を早めたのでは、と思っています。この計画が、その後どうなったの知りません。

事情はともかく、相手に対しては放り出したことになるので、今でも「梅が丘中」と聞くと、申し訳ない気持ちが走ります。

翌昭和25年初めに、ピアノが入りました。「ご寄付」だったような気がします。

今、ピアノは、『欲しいけど無い』ではなく、『欲しくないから無い』と言う時代ですが、当時は、物不足・芸術より現実という世の中、それは高価な貴重なものでした。それまでの音楽の時間は、オルガンでした。旧イナカーの学校は一所です。

今の若い方々は、オルガンと聞くと、パイプ・オルガンを想像されるのではないのでしょうか。そのパイプ・オルガンが入ったと思ってもらえば良いです。ですからお祝いの式典があったような記憶もある程です。

そんな雰囲気でしたから、『お祭り大好き』の私は、生徒会に、前年学芸会がなかったこともあり、『ピアノ披露の学芸会』をやろうと提案しました。会長は先輩先輩だったと思いますが、決議されました。そのためにお金や労力、時間など、先生方がどのくらい大変かは、全然考えてない提案でした。

それが採用されて、3月、『ピアノ披露学芸会』が開催されました。会場は、教室を二つ繋いで作られました。講堂はモチロン、体育館などもない、ただ教室だけがあると言う時代でしたから…。その後、歴代の入学式・卒業式が行われたところでした。

舞台は、机を並べて作りました。その上に立つと、頭が天井につかえそうでした。育ちの悪い子供達ばかりだったので、出来た話です。

よく学校側は採用したと思います。2月・3月と言うのは、3年生は受験、在校生は学期末試験と、何かと大事な時期です。学校側も、実際は、『ダメ』と言いたかったのですが、生徒会の提案と言うことで、やむをえぬ採用だったのでしょ

Memorial Time

う。生徒会担当の、音楽の水野先生が、「生徒の提案で、学校行事が行われた」と、誇らしげに言われたのを覚えています。キット実現に、努力されたのだと思います。

今で言えば、「音楽ホール」完成披露フェスティバルと言ったところでしょうか…。ほとんど私どもの手で開催したと記憶しています。

その時の「プログラム」を別掲しました。

3年では、何と言ってもまずは「学級裁判」です。

今もあるかどうか知りませんが、当時「ホーム・ルーム」という時間がありました。クラス毎に、担任の先生のもとに、学校生活についてのいろいろな提案・問題が出る場面でした。

レベルが低いと思われるかもしれませんが、「誰々さんは、こういう悪いことをする」などの、問題提起がされることがありました。

そこで、また大袈裟なこと？の好きな私は「学級裁判」を提案したわけです。

本人にも言い分はあるし、言いにくいこともある。裁判制度を勉強することにもなる。皆が、検事になったり、弁護士になったり、裁判官になったりするのも面白いではないか、ということだったと思います。いずれにせよ、それまでの「ホーム・ルーム」での在り方からの、改善提案をしたつもりです。承認され、やることになりました。勿論、私ども3C担任の園工の佐野先生も居られました。

ところで、最初に「被害」になったのが、どう言えば良いか困ってしまうのですが、何と、私と、隣に座っていた斉藤女史ともう一人（女性、本人の名誉のため、名は付す！）の三人でした。「訴因」は、「授業中に私語が多い。特に肥田は、漫画を読んでいる」というものだったように覚えています。

裁判の具体的内容は省略しますが、我々が、面白く・楽しく、今で言うディベートをやっている間、佐野先生は、承認はしたけど、学級委員だった二人が被告で、どうなるか心配されていたせいか、フンズマツ顔をしておられました。裁判長の丸山君が、「執行猶予」付きの判決を出すに当たり、先生に相談に行った時、それまで一言もしゃべらなかった先生が、待っていたように、「それで行け」と一言、言われたのが印象的でした。

この話はこれで終わりません。

どういうタイミングか、その直後だったと思いますが、どこか地方？の中学校で、人民裁判（吊し上げ）的な「学級裁判」が行われ、マスコミ（当時ラジオはNHKだけ、全国紙は毎・朝・読）が、大きく取り上げました。

翌朝早速、校長の前川先生の校内放送がありました。勿論「学級裁判」は良くないという話の中

心でした。

3年C組の「学級裁判」が、二度と開かれなかったのは、勿論です。

校旗や校歌が出来たのも、3年の時でした。

校旗についても、先生方がしょうがないと思われたことをしたようですが、割愛します。

ただし、駒中の校歌は、世の校歌というものがドウショウモナイものが多い中、珍しくイイと思います。明るく、行進曲風で、メロディも綺麗です。近くに住んでおられた御縁だと聞いていますが、高田信一の作品としても、「チョベリグ」迄はいかぬにしても、ベリー・グッドな部類には入るのではないのでしょうか…。

甲子園での、勝った高校の校歌を聞くたびに、スポーツに力を入れると、どうしても音楽の方は疎かになってしまうものだなと、ツクツク考えさせられます。駒中のは、開会式の入場曲としても使えるほどの良い曲ではないかと、思うのですが、皆さんはいかがですか…。

もっとも、私は、この校歌にも一か所問題があると、ケチを付けたのでした。音楽の水野先生は、呆れたようです。「天下の大先生の作品に！」と…。

最後に、どうしても語りたいのは、「ハンドボール部」の話です。

ハンドボール部は、私達が3年になった時に出来た部でした。当時、運動部の中で、もっとも目立った？しかし我々が卒業後は、ハカナクも消えてしまった部です。

当時の運動部は、野球部（当時、小学校にもこの部だけはあり、もっとも権威ある部、男性のみ）、バレー部（9人制、女性のみ）、バスケット部、軟式庭球部に、ハンドボール部を入れ、5つだったと思います。

この中で、庭球部が強かったです。校長先生以下、先生の中でおやりになる方も多く、ダブルスは、世田谷区で、1、2を争っていたのではないのでしょうか？。

ハンドボール部は、小学校からのボスのもとに集まっている部には入れない、先生方は煙たい、狭い場所より、広いグラウンドを使うスポーツがしたいという狂者（？）が集まった部でした。

今は、ボールが少し小さくなり、室内競技になっているようですが、フィールドゲームであることを除き、当時も、半円型のゴール、3歩に1回のバウンドなど、基本は今と同じです。

さて、メンバーは集まりましたが、学校全体が、初めてのスポーツでした。

野球は世の中が、テニスは校長先生以下が、バレーは体操の吉山先生が、バスケットは？とそれ

Memorial Time

それ、指導ノウハウが、学校にありましたが、当方については皆無でした。

あるのは、ルールと練習方法やテクニックが書いてある一冊の解説書だけ。恐らく参考書は、当時、日本にはこの一冊しかなかったろうと思います。今だってマイナーなスポーツです。50年前、どんな存在だったか想像して下さい。

練習は、素人（中学生なので、「素人以前」が正確な表現かも）が、本を読んで考えた練習方法を繰り返すだけでした。ただひたすら、時間を掛けるだけ、ただし「スポーツマン精神」の方は十二分と、今の中学の「部活」とソックリ。勿論、夏休みもほとんど練習をしました。二人だけと言う日もありました。

「朝練」や「日曜も」こそありませんでしたが、あり方は今と少しも変わらない50年前の「部活」でした。現在の駒中が、そうなのかどうかは、知りませんが…。

体操の吉山先生が、時々見て下さいましたが、私供から見て、やはり「体操」の先生でした。しかし、見てもらえるだけでも、嬉しかったものです。ただ、一度だけでしたが、不思議な御縁で、担任の佐野先生のお子さんが大学でハンドボールをやっておられ、初めの頃見てもらったことがありました。

さて、私どもは、ユニフォームを作ろうということになりました。格好を付けたがる？、私の提案だったかも知れません。

今で言えば、「新しく出来た寄せ集めのクラブで、1、2年は数人。一体感を作り、存在をアピールするものが必要である」と言ったところでしょうか…。

当時、ユニフォームを持っている運動部は、野球部だけでした。勿論、自費？、学校が少し援助していたかもしれませんが…。それでも、誰かのお古や上着だけの子などがいました。正規のユニフォームを着た姿は、それは格好いいものでした。

私どものモノは、手作りでした。長袖の下着を、買ってきた染料を使い、自宅のガスコンロの上、お鍋で煮るわけです。白い襟は、別に作り、ホックで止めました。背番号も、胸のマークも、それぞれの色に染め上げ、ボール紙を芯にして、これもホックで止めます。

なぜ、縫い付けないかというと、普段、下着として着るものだからです。痛ましいでしょう。長袖がなく、半袖の子もいました。

しかし、出来上がりは、格好よかった！と思います。スカイ・ブルーの下地に、黄色の背番号、胸のマークは、黄色に赤。今から考えると少しケバケバしかったかな？と思いますが、後進国時代でしたから、目立つことが、かえって格好がよかったのではないのでしょうか。

学校には全然世話にならず、全部自分たちでやりました。先生からは、善い悪いも含め、ナンモ言われなかったような気がします。

秋の放課後、広い運動場で展開される各運動部の練習風景は、バック・ネットの方から、野球部、我々の「スカイ・ブルー」、バレー部、バスケット部と、若い掛け声と共にそれは壮観でした。

11月、東京都の中学校ハンドボール大会があり、吉山「監督」に引率され、勇躍参加しました。参加校は15でした。良いメンバーが揃っていたので、いい所まで行くのではないかと自惚れていましたが、第1試合で、後半に1点入れられ、本当に残念ながら、1：0で負けていました。

大した相手ではなかったと思いますが、創部以来、初めての対外試合でもあり、実戦のテクニックも、ゲーム展開の駆け引きも知らず、無我夢中で相手に翻弄されたまま終わってしまった感じでした。相手チームのキャプテンの英姿は、今でも思い浮かびます。

もっとも、入れられた1点は、キーパーが足に包帯を巻く怪我をしていて、飛び上がれなかったようです。その瞬間を、今でもまざまざと思い出すことが出来ます。選手選定にも、問題があったようです。

しかし、何と言っても、野球部やバレー部は、対外試合をしましたから、一度でも良いから、対外試合を経験させてもらえていればと、残念に思います。おそらく練習内容は変わり、作戦を立てることもできたでしょう。「実戦は、最良の先生」です。なぜ、なかったのか、分かりません。

我が「戦友」達のリストを、別掲しました。

こんなことで、中学3年は、終わりました。

ほかにもショウガナイことをしたとは思いますが、大きいものは、こんなところですよ。

卒業後、暫くして、ハンドボール部はなくなったと聞きました。それからだいぶ経って、昭和30年代の終り頃、同窓会のことで学校を尋ねた時、現在運動部の中で、ハンドボール部が、世田谷で1、2を争うレベルだと聞きました。大学時代にハンドボールの選手だった先生がいるので、という話でした。その昔、こんなハンドボール部があったと言うことを知る人は、一人もいませんでした。

やっぱり専門コーチがいると違うかと、只ひたすらランニングとパスをやっていた、我が駒中時代を、いじらしく、懐かしく思い出しながら、帰りました。

これで昔語りは終わります。

ところで、私は、駒中時代、やりたいことをやらせてもらい、その上、卒業する時、学校から「優良賞」、区から「区長賞」をもらったので、本当は、感謝しなければならないと思うのだが、

Memorial Time

正直なところ、何か素直になれないところがある。

3年の担任だった園工の佐野先生、生徒会担当の音楽の水野先生、体操の吉山先生のほかにも、お世話になった先生方はいる。理性的には、私のやることを黙って見守ってくださった先生方のご厚意は、大変なものだとも思う。しかし、今一つ感覚的に何か満たされないものがある。なぜか、なにか、自分でも良く分からない。何か分かってもらえなかった満たされぬ気持ちが残っている。

この気持ちは、時を経るにしたがって、段々強くなり、定年を迎え、昔を振り返ることが多くなった最近、尚更感じている。

もっと早く解決しておくべきだったと思われるかもしれない。しかし、一方で評価され、大変お世話になったのに、こんな事は言えたものではない。

前川先生を見送り、一昨年、退職後画壇で活躍されていた佐野先生（百歳？）も亡くなり、卒業して50年も過ぎ、私自身も老年に近くなったので、やっと、こんな大それたことを言わせていただけるのでは、思うのだが…。

3年2学期末、佐野先生から、オール5の通知表が渡された時、教室の片隅に呼ばれ、「こんなものより、模擬試験の成績（一般参加、1000人中70番、もっと良い人が4、5人居たようだ）のほうが大事だぞ」と、初めて叱られたのが、今でもその時の先生の顔と一緒に、浮かんでくる。

相変わらずの自分勝手、故前川先生を始め諸先生方、スママセン。

胸中ハンドボール部員3年生リスト(昭和25年11月)

○フォワード

井上
奥本
柴井
花房
肥田
水口
山口
吉田
安山

○バック

浦野
遠藤
萩野
大西
木城
松本
加川
守谷
宇田川

学 校 新 聞 昭和25年 11月	1. 国 語 A 組 2. 算 数 B 組 3. 英 語 C 組 4. 理 科 D 組 5. 社 会 E 組 6. 体 育 F 組 7. 音楽 G 組 8. 美術 H 組 9. 家庭 I 組 10. 衛生 J 組 11. 労働 K 組 12. 英語 L 組 13. 理科 M 組 14. 社会 N 組 15. 体育 O 組 16. 音楽 P 組 17. 美術 Q 組 18. 家庭 R 組 19. 衛生 S 組 20. 労働 T 組	1. 国 語 A 組 2. 算 数 B 組 3. 英 語 C 組 4. 理 科 D 組 5. 社 会 E 組 6. 体 育 F 組 7. 音楽 G 組 8. 美術 H 組 9. 家庭 I 組 10. 衛生 J 組 11. 労働 K 組 12. 英語 L 組 13. 理科 M 組 14. 社会 N 組 15. 体育 O 組 16. 音楽 P 組 17. 美術 Q 組 18. 家庭 R 組 19. 衛生 S 組 20. 労働 T 組	1. 国 語 A 組 2. 算 数 B 組 3. 英 語 C 組 4. 理 科 D 組 5. 社 会 E 組 6. 体 育 F 組 7. 音楽 G 組 8. 美術 H 組 9. 家庭 I 組 10. 衛生 J 組 11. 労働 K 組 12. 英語 L 組 13. 理科 M 組 14. 社会 N 組 15. 体育 O 組 16. 音楽 P 組 17. 美術 Q 組 18. 家庭 R 組 19. 衛生 S 組 20. 労働 T 組	1. 国 語 A 組 2. 算 数 B 組 3. 英 語 C 組 4. 理 科 D 組 5. 社 会 E 組 6. 体 育 F 組 7. 音楽 G 組 8. 美術 H 組 9. 家庭 I 組 10. 衛生 J 組 11. 労働 K 組 12. 英語 L 組 13. 理科 M 組 14. 社会 N 組 15. 体育 O 組 16. 音楽 P 組 17. 美術 Q 組 18. 家庭 R 組 19. 衛生 S 組 20. 労働 T 組
--	---	---	---	---